

訪問日：2017.9.28 / エリア：京都

社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会 東九条のぞみの園



徳平さん

回答者

徳平 ともえさん(東九条のぞみデイサービス主任)
出口 むつみさん(京都市東九条地域包括支援センターセンター長)

デイサービス 1日の流れ

1日の流れとしては、施設に到着後、今日の体調確認を経て、リハビリで筋トレなどをしていただきます。その後は、さらに目標を持って個別の訓練を希望されている方のみのリハビリの時間があります。入浴希望の方は順番に午前中からお風呂に入っていたり、昼食、午後にはレクリエーションなどを行ないます。

定員は32名で、週に2、3回利用される方が多いです。デイサービスは自立支援も兼ねているので、みなさんに手伝っていたりすることは無理のない範囲で一緒にさせていただいています。

文化活動について

教会のボランティアさんが書道の指導に来てくださいます。毎月季節を表す漢字一つをご利用者を選び、練習をしています。

ペットボトルのキャップに折り紙を巻いたものを組み合わせて貼ったり、折り紙を巻いた花を組み合わせて壁掛けを作っています。七福神や花束などの図柄があります。そういったアイデアは職員が皆様にお声掛けをして、みんなで一緒に取り組みます。手芸が好きな方も多く、お座布団まで縫われるような上手な方もいらっしゃいます。編み物を作品にすることもあります。「ああしたい」「こうしたい」と職員が間にお声掛けをしたり、みなさんでアイデアを出し合うことで、なかなか使わない手先を使って細かい作業をしてもらうリハビリの意味もあります。

文化活動は、季節を感じてもらうために行なっています。またSKY ふれあいフェスティバルなどイベントに向けて制作してもらい、活気が生まれるのを期待しています。

カラオケが好きな方もいらっしゃいます。年末には、紅白歌合戦をして、スタッフは仮装し、練習もして利用者さんと一緒に歌を歌うイベントもしています。

地域との関わり

地域の中に同法人の施設がいくつかあり、日頃から交流が続いています。

その一つである希望の家保育園からは毎月子どもたちが絵を書いて持って来てくれます。今月はおばけでした。敬老週間やクリスマス時には歌を歌いに来てくれます。

それに加えて、児童館の子どもたちとも交流があります。子どもたちが希望の家で喫茶をする機会が1年に1回あり、デイサービスの方々が出かけて行くことになっています。毎年このことなので、利用者さんも覚えておられて、楽しみにされています。ハロウィンの時期には、仮装して来てくれるので、利用者さんやスタッフも仮装します。

地域福祉センター希望の家では春祭りをしてるので、団体が何箇所か集まって、みんなで一緒に歌を歌ったり、遊んだりします。夏祭りもあり、冬には餅つき大会をする機会が地域との交流になっています。

行政に求めること、アートに期待すること

この東九条のぞみの園は、地域から求められて建った施設です。そして、京都市で初めて指定管理を受けた施設でもあります。施設は建設当初のケアの考えに則り、回廊型となっています。以降、高齢者の方のケアについては時代とともに変化してきており、当施設は京都市の持ち物で、大きな変更が難しいところがあるので、ハード面での厳しさを感じています。

デイサービスには、軽度から重度の介護度の利用者さんまで、幅広くいらっしゃって、様々な状態の方のケアができるスキルが職員に必要になります。元気な方は、「レクリエーションをしましょう」と言うと、「そうやな」と言って楽しんでもらえます。中・重度の方にとっては、どう芸術文化に向き合ってもらえるの

キリスト教的相互愛の精神に則り、ご利用者の人格と尊厳を守る特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンター等の福祉施設運営を行なっている。地域包括支援センターとしての役割、自宅での生活に必要な保健医療福祉サービスを利用するための相談を請け負うケアマネージャーによる支援（居宅介護支援事業）、高齢者向け住宅に住んでおられる方への生活援助員の派遣（シルバーハウジング事業）、その他、地域包括支援センターの業務委託を受け、高齢になっても住み続けられる地域づくりに向けて取り組んでいる。

〒 601-8005
京都市南区東九条西岩本町1-1
TEL: 075-662-3961
FAX: 075-662-3973

かは課題です。お体がしんどい中でどのようにしたらレクリエーションに目を向け、興味・関心を持っていただけるかが難しいところ。福祉・介護職員の人材不足の問題もあります。ボランティアさんや地域の方のご協力など、職員以外で協働できる方がもっと必要だと感じます。

また、現在はレクリエーション活動そのものがとても幅広く、豊富になってきています。ただ、一律に同じ内容をするのではなく、それぞれの利用者さんに合った内容を提案していくことが必要です。ただ、実際の場面では、費用負担の問題もあります。そういうことに関して情報がもらえると嬉しいです。

現在そして今後のデイサービスは、これまで以上に、まだまだ元気な方がもっと元気であるために利用されていくようになると思います。同時に中重度の方の居心地の良い場所としての姿も求められます。デイサービスの基本的な役割に加えたプラスαの付加価値、楽しめる場所であることが必要になってくるでしょう。そこで芸術活動やレクリエーションが求められるのだらうと思います。

福祉を専門にしているから面白いレクリエーションのアイデアを生み出せるとは限らないと思います。福祉を専門にしている人ばかりで議論していても、考えが固まってしまい、新しくアイデアを生み出すことが難しいこともあります。

福祉の専門性が高い人と一緒に、芸術ができる人がいれば、できることも膨らみます。特養やデイサービスでレクリエーションの部分を引き張って行っていただけたらと思います。

芸術をするということが、何かすることによって評価をされることなのであれば、利用者さんは本当に純真に喜ばれるし、ストレートに表現されるので、評価を得るという意味で、芸術活動のアイデアを出せる人にはやりがいを持って仕事をいただけないかと思っています。